

地域福祉ワークショップ 「地域福祉について考えよう」

～ 災害にも強い福祉のまちづくり～

実施報告書



令和5年3月

中央区・中央区社会福祉協議会

【目次】

ワークショップの目的	2
グループワークの進め方	3
グループワークの結果	4
資料編(プログラム、写真、アンケート結果)	17

1 ワークショップの目的

区では、令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健医療福祉計画2020」を策定、令和3年3月には中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会がより一層連携を強化して「地域共生社会」の構築を目指すこととしたところである。

「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」という基本理念にあるように、地域共生社会の実現のためには、行政による取り組みはもちろんのこと、区民が主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりが重要である。

地域福祉ワークショップは、参加者同士の自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合い、横のつながりを深めるとともに支えあいの地域づくりを推進することを目的としている。

2 主催

中央区・中央区社会福祉協議会

3 開催状況

地域	日時	会場	参加者数(申込者数)
京橋	令和5年2月17日(金) 午後6時30分～8時30分	中央区役所8階 大会議室	11人 (14人)
日本橋	令和5年2月1日(水) 午後2時00分～4時00分	日本橋公会堂 第3・4洋室	12人 (14人)
月島	令和5年1月25日(水) 午前10時30分～12時30分	月島社会教育会館 ホール	14人 (18人)

4 当日のスケジュール

1. 開会・あいさつ (2分)	事務局挨拶
2. オリエンテーション (5分)	●プログラム説明 ●地域福祉ワークショップの目的
3. 講演 (30分)	「中央区の地域福祉を考える」 ●講師：駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏
4. グループワーク (80分) ①説明(5分) ②話し合い(50分)	グループごとに、「災害にも強い福祉のまちづくり(地域防災について)」をテーマに話し合いを行う。 ●ファシリテーター： 駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏

③発表（15分） ④総括（10分）	●サポーター： 中央区社会福祉協議会 職員 ●オブザーバー： 中央区（防災課・高齢者福祉課）職員 おとしより相談センター 職員 ①テーマに沿って話し合う。 ②各グループで話し合った結果を発表。 ③ファシリテーターからコメント、アドバイス。
5. おわりに （2分）	事務局挨拶
6. 閉会	閉会

(120分)

5 グループワークの進め方

各グループに3名から4名の参加者と、サポーター役として中央区社会福祉協議会職員を配置し、テーマに沿って意見交換・集約を行った。またオブザーバー役として中央区防災課及び高齢者福祉課、おとしより相談センターの職員も参加し、参加者の質疑に応じた。

- ① 自己紹介をする。
- ② 「司会」役と「報告役」を決める。
- ③ 講義内容の振り返りとテーマの確認。

(講義内容)

- ・地域づくりは防災や福祉の土台となるものである。
- ・防災と福祉は切り離して考えることができず、一体的に考える必要がある。

(テーマの確認)

災害にも強い福祉のまちづくり～防災に対する思いを共有しよう～	
地域の困りごとや 心配事	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の困りごと、心配事は？ ・防災に関して気になること、思い
日頃の活動と「防災」の 関係	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の活動を通して防災について考えたこと ・活動を通して気になること
地域でできること	<ul style="list-style-type: none"> ・こうすればうまくいく！アイデア、提案 ・どのような防災のしくみがあるとよいか？
自分にできることや 必要なこと（もの）	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデア、提案を実現するために自分にできることは？ ・必要なこと（もの）は？活動？サービス？人？場所？

- ④ 個人ワーク（付箋に意見や思いを書き出す）。
- ⑤ 付箋をもとにテーマに沿って話し合い、模造紙にまとめる。
- ⑥ グループで話し合った意見を発表する。
- ⑦ ファシリテーターから総括コメントをいただく。

6 グループワークの結果

(京橋地域)

1 グループ「まずは自分と自分の家族を守る～安全を確保し次に進む～」

【課題】

●個人的な心配事

- ・ペットを連れて避難することができるのかという疑問。
- ・情報をいかに取得するか。

●地域の心配事

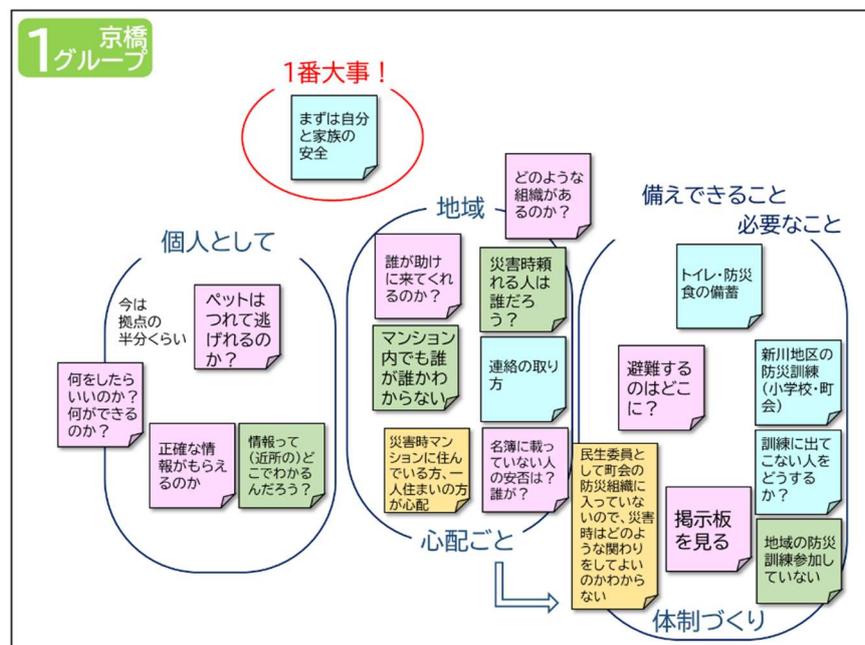
- ・誰が助けに来てくれるのかわからないという声。
- ・災害時地域たすけあい名簿に名前が載っていない人の安否確認をいかに行うか。
- ・災害時にマンションで一人で住んでいる方をどうすれば良いか。

【課題の解消に向けて】

●必要なこと・備え

- ・組織体制づくり。
- ・町会の掲示板を見て地域の防災訓練に参加する。
- ・防災食を備蓄する。

< 検討結果の模造紙 >



※2グループは当日欠席者多数のため、1・4グループに統合。

3グループ「昼と夜、2つの時間軸から防災を考える～オフィスビルとの互助も大切～」

【課題】

●マンションに関すること

- ・隣の部屋に人が住んでいるのか、空き家なのかわからない。
- ・マンションの中にオートロックがいくつもある。

●支援を必要としているかわからない

- ・声を上げられない人にどうつながるか。
- ・支援の声かけに反応が乏しい方への対応。
- ・障害者や車いすの方など、一人での避難が難しい方がどの程度いるかなどの情報が共有できていない。

●町会・自治会問題

- ・町会に加入しない人が増え、町会の規模や人数が縮小している。
- ・地域とのつながりがいない人がいる。

【課題の解消に向けて】

●自宅のできる準備

- ・備蓄品の準備。
- ・家具の転倒防止、古い家電の処分（発火防止として）。

●公助との協力

- ・区や社会福祉協議会がどのような準備をしており、発災時はどのような支援を行うのかなどの情報共有をする。

●マンション管理組合の防災・防災意識を高める

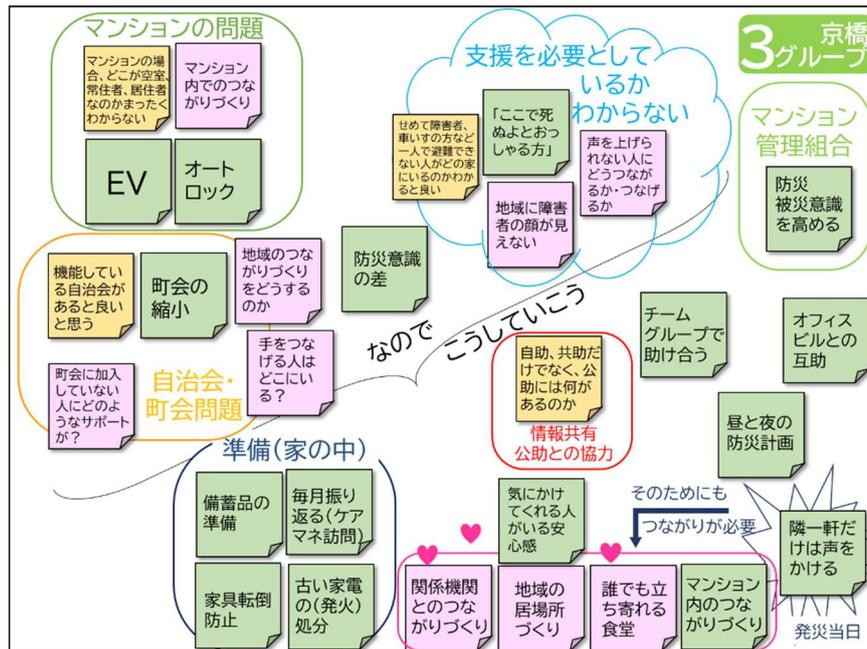
●中央区の特徴を踏まえた防災計画の作成

- ・昼夜の人口差があるため、昼夜で異なる防災計画が必要ではないか。
- ・オフィスビルとの互助も重要である。

●つながりづくりに向けて

- ・関係機関とのつながりづくり、地域の居場所づくり、マンション内でのつながりづくりにより、気にかけてくれる人がいる安心感を培っていく。
- ・つながりの積み重ねにより、発災当日に隣一軒へと声をかけることにつながっていく。

< 検討結果の模造紙 >



4 グループ「帰宅困難者の支援も含めた地域のつながりづくりに向けて」

【課題】

● 昼夜の人口差

- ・ 在勤者と在住者の連携、区内でも地域によっては人口差がある中で、いかに防災を成り立たせるか。
- ・ 八丁堀にはJR八丁堀駅がある。JR八丁堀駅は千葉県の大規模テーマパークへと直結しているため、発災時に帰宅困難者があふれる可能性がある。
- ・ 各地域の特性を踏まえた防災計画が必要である。

● SNSのデメリット

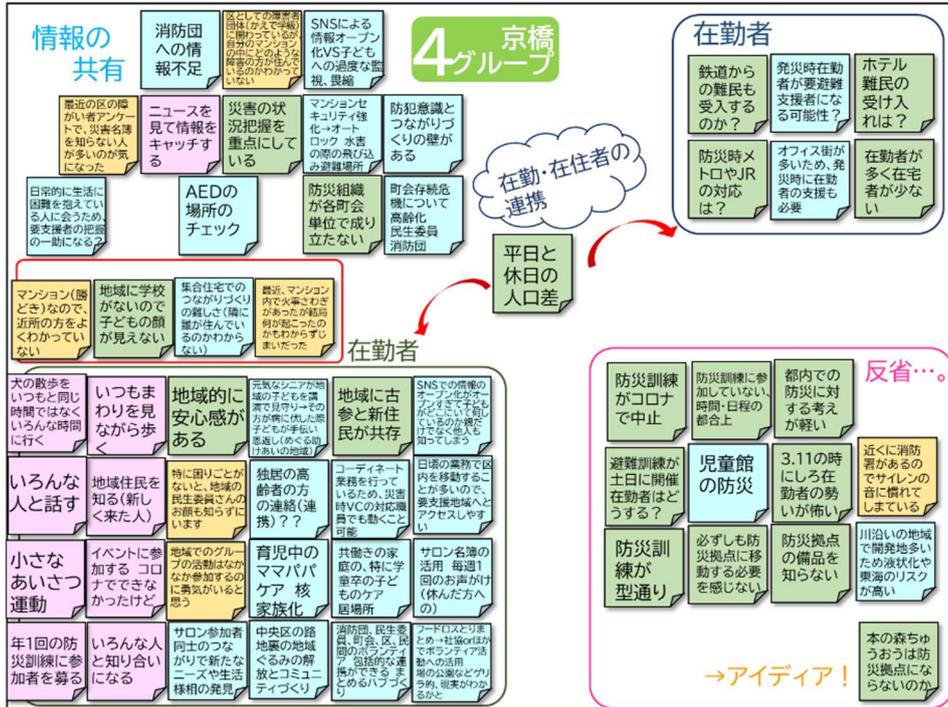
- ・ SNSを無意識に利用するのは危険が伴うものである。良いと思ったことでもSNSに投稿する際は気をつけないといけない。使い方によってはリスクが大きくなるため、デジタル化が進んだ現代において新しい災害に備えたSNSの使い方が求められている。

【課題の解消に向けて】

● 地域の特性を踏まえた防災の仕組みづくり

- ・ 各地域の特性を踏まえた防災計画が必要である。
- ・ 12月にオープンした本の森ちゅうおうを防災拠点として使うことはできないのか。
- ・ 防災拠点は小学校だけでなく、在勤者のことを考慮し数を増やしてはどうか。

< 検討結果の模造紙 >



(日本橋地域)

1グループ「気軽に参加できる仕組みづくり～あきらめずにつながりを作るアプローチ～」

【課題】

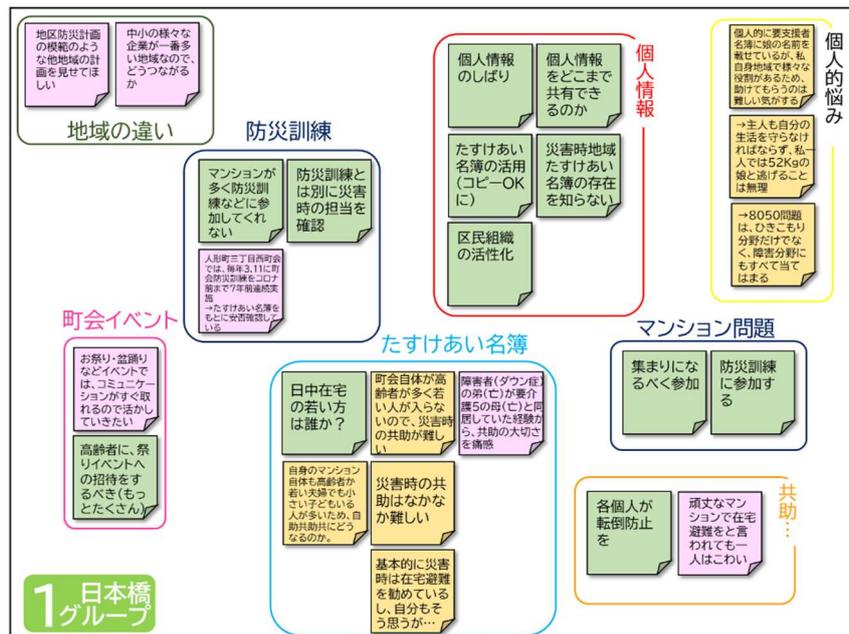
- 防災訓練に高齢者が参加しない
 - ・ 参加の呼びかけが少ないのではないかと。
- 災害時地域たすけあい名簿の活用ができていない
 - ・ 町会長、民生・児童委員、警察、消防に限らず町会の役員などにも渡せないのか。
 - ・ 名簿の存在を知らない人もいるため、名簿に名前を載せてはどうかと勧めても「それは何か？」と聞かれてしまう。活用には程遠い印象を受けている。
- マンションごとに活動内容が異なっている
 - ・ 色々な活動を行うマンションもあれば、全然活動できていないマンションもある。
 - ・ 管理組合がしっかりしていれば、防災訓練の参加者も増えるのではないかと。
- 自助・共助に対する不安、個人的な悩み
 - ・ 中央区は在宅避難を推奨しているが、一人では不安に思ってしまう。
 - ・ 色々な役割を担っているが、障害のある子を持つ母でもあるため、いざというとき誰が自分のことを助けてくれるのかと考えてしまう。

【課題の解消に向けて】

- 地域の防災計画作成

- ・作成時はどのように自身と関わってくるのか示せると良い。
- ・他区の地区防災計画を見せてほしい。
- ・区内の中小様々な企業といかにつながるか。
- 町会イベントの活用
 - ・お祭りや盆踊りに、高齢者に気軽に参加してもらうことで、同時に安否確認をすることができる。
 - ・高齢者をもっと招待してはどうか。

<検討結果の模造紙>



2 グループ「まずは小さな一歩から～次世代の力を活かしていく～」

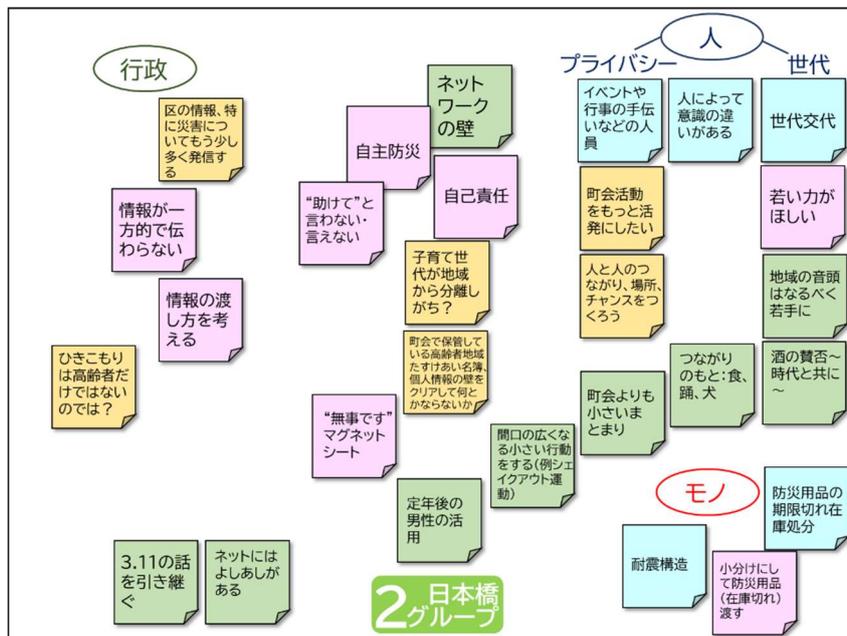
【課題】

- 参加・活動の壁がある
 - ・若い力が欲しい。
 - ・町会活動を活発にしたいが、色々心配される方もいるため、なかなか前に進まない。
- 定年後の男性の活用
 - ・今後の町会活動のテーマになるだろう。
 - ・音頭取りは若者が行い、年を重ねれば重ねるほど下っ端になっていくのが理想だが、現実問題としてオートロック以上に厚い壁がある。
- 公助には期待できない
 - ・情報の出し方が上手ではない。

【課題の解消に向けて】

- 小さなステップを用意する
 - ・若者が町会活動に参加しやすい仕組みとして、いきなりすべての活動に参加するよう促すのではなく、小さな活動、参加可能な活動に参加するよう呼びかける。
 - ・いきなり1年間すべての活動に参加するよう言われたら参加も遠のいてしまう。
- つながりの元を活かしてつながっていく
 - ・食べ物、踊り、犬などがつながりの元（きっかけ）として重要である。
 - ・お酒は年齢を重ねた男性には歓迎されるが、若者の場合は賛否がある。
- 非接触型のつながりを活用する
 - ・安否確認の手段として、玄関ドアに「無事です」と書かれたマグネットシートを貼ること、ベランダに布（ハンカチ）を吊るす方法がある。
- 次世代の力を活かす
 - ・中央区には次世代の人たちがとめどなく入ってきている。この力を上手に生かしていく。

<検討結果の模造紙>



3グループ「人と人とのつながりを築く～見守りをきっかけにお金ではない年金、見守られる関係を築いていく～」

【課題】

- 人と人とのつながりが希薄化している
 - ・高齢化が進行している。
 - ・地域とのつながりが少ない人が多い。

- ・個人情報保護などの社会的なハードルもあり、思うように地域活動ができない。
- 自分事として感じていない
- ・防災の話をいかに自分事として感じられるか。知識がない、技術がないからやらないのではなく、他人事を感じているからこそ動かないのではないか。

【課題の解消に向けて】

●町会関係

- ・町会・自治会をクローズなものではなくオープンにする。
- ・個人情報の壁を解消するために、見守りを希望する人に手を上げてもらい、同意を得た上で個人情報を提供してもらう。

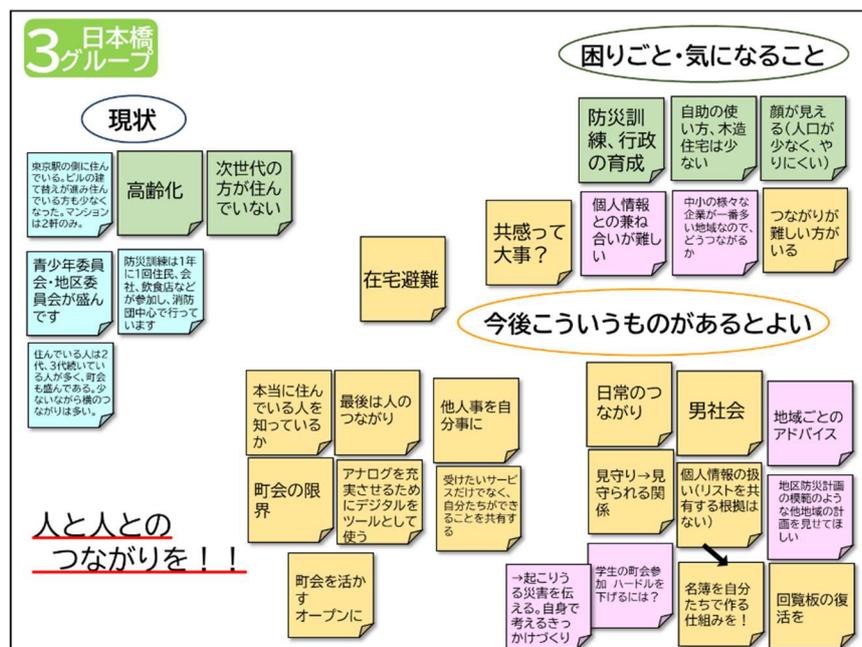
●つながりづくり

- ・デジタルはアナログを充実させるための手段である。デジタルを活用してホームページなどで情報提供するの也不错だが、隣近所と知り合うために回覧板を復活させるの也不错ではないか。
- ・日常的なつながりは防災にもつながる。

●日常の見守り

- ・60代の仕事をリタイアしたばかりの若くて元気な方に、見守りの担い手になることを提案した。これにより周囲との関係ができ、将来的に見守られる側にもなることができる。これはお金ではない年金であり、現在の横のつながり、将来的な縦のつながりを構築することが可能となる。

<検討結果の模造紙>



(月島地域)

**1 グループ「コミュニケーションのきっかけづくりによりみんなで防災を考えていく！～
防災にこだわらず、何かしらの関わりを通し顔の見える関係を目指す～」**

【課題】

●コミュニケーション不足

- ・コミュニケーションの取り方が難しい。顔の见えない住民にどう対応したらよいか。
- ・防災拠点運営委員会が開かれていないし、いつ開催するのかわからない。

●個人の問題

- ・個別避難計画が作成されていない。発災時、誰が支援者になるのかわからない。
- ・マンションが壊れた際の修繕のしかた、防災マニュアルもできていないので、いざというときに小学校にマンション住民があふれかえる可能性がある。
- ・何かあったときに、どうすれば良いのかわからない。

【課題の解消に向けて】

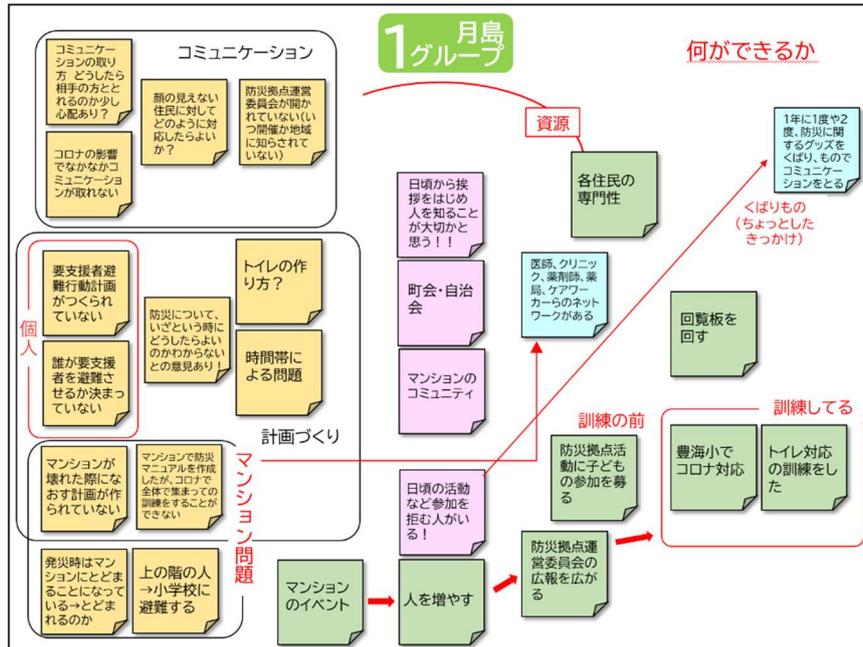
●各資源を活用する

- ・消防団、民生・児童委員、町会・自治会、マンションコミュニティなどの資源を活用する。
- ・各自の仕事を活かしたネットワークを資源として作ることができる。
- ・マンションの中には一級建築士もいるかもしれない。そうした人たちとマンションが壊れたときにどうするか一緒に考えてもらえると、専門性も上がるのではないか。

●まずは防災訓練の実施を目指す

- ・防災訓練の前提として、広く周知し、参加人数を増やす必要がある。
- ・マンションで細かなイベントを行うことでつながりが広がっていく。防災に限らず様々なイベントを開催することで人と人の顔が見えていくようになる。1年に1回、防災関連の物品を配ることで、コミュニケーションのきっかけとなり、充実した訓練へとつながるのではないか。

< 検討結果の模造紙 >



2グループ「多様な年代、立場の方が顔を合わせ参加する仕組みづくりを目指す」

【課題】

●水害について

- ・水が上がってきたときに高いビルへと避難する話になっているが、高いビルに入れられない問題が発生している。こうした際にどうするのか、今後に向けて整理が必要である。

●防災について

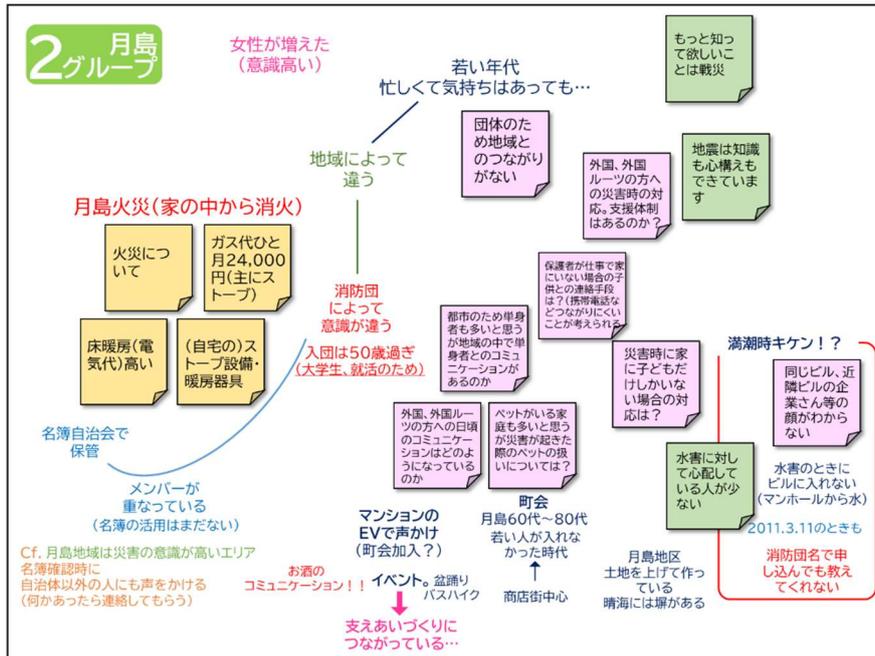
- ・消防団同士のつながりはあるが、消防団の中でも色々な課題がある。構成員には年齢の高い人も多く、若い人がなかなか入ってくれない。
- ・消防団に入らない理由は様々だと思うので、そうした点も注目しながら後継者を入れていく必要がある。

【課題の解消に向けて】

●コミュニケーションをとる

- ・顔の見える関係がないと先に進まないため、地域の色々な年代の方、多様な方が顔を合わせ参加する仕組みが必要である。
- ・コミュニケーションを取るきっかけとして、お酒、飲み会も大切ではないか。

< 検討結果の模造紙 >



3グループ「一番大事なものは個人の命～福祉や防災は命を守るためにある～」

【課題】

●顔が見えない

- ・古くからの戸建ても残っているが、月島は高層マンションが増え、周囲の住民との交流が少ないのが特徴である。
- ・言葉がなかなか通じない方の命をいかに守るのか。

●関わり方がわからない

- ・命を守ることは大切だが、どのように自分が関わっていけば良いのかわからない。
- ・以前は回覧板や掲示板でつながることができたが、今はそれが難しい。

【課題の解消に向けて】

●あいさつを通してつながる

- ・消防団員の参加者からは、あいさつがつながるきっかけになるとの話があった。
- ・つながるきっかけを作ることが、命を守ることへとつながる。

●冷静に行動する

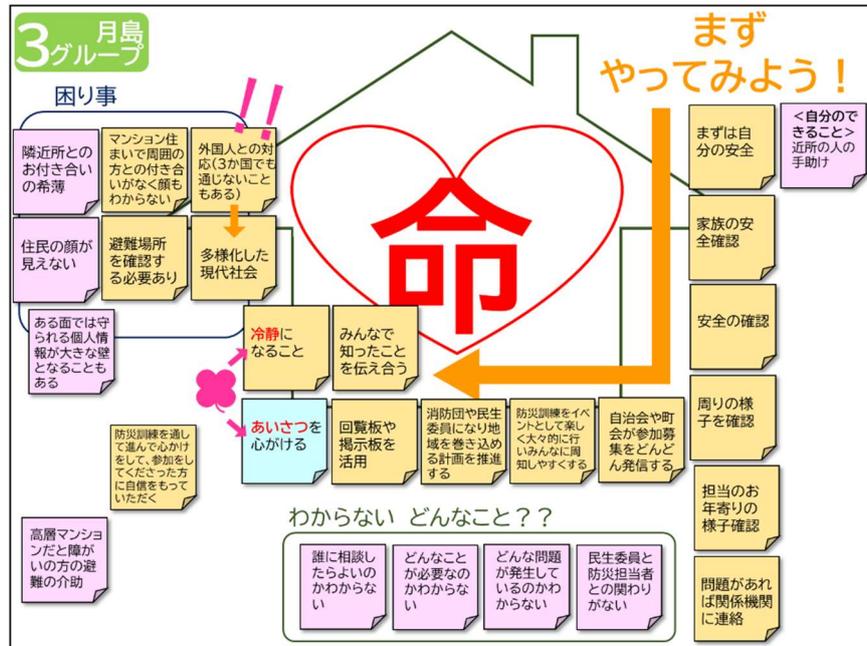
- ・一人一人が冷静に行動できるようしかけていく。

●情報を伝え合う

- ・回覧板・掲示板に代わる手段として、SNSを活用する。SNSにより把握した様々な情報を、みんなにつないでいく。

- ・あいさつに一つ「こんなことはどうですか」「消防団はこんな活動をしていますよ」「福祉ってこんな感じなんですよ」と付け加え、あいさつをしながら情報を広めていく。
- ・屋根瓦式に誰もが教え合う、伝え合う立場になることが重要である。

< 検討結果の模造紙 >



4 グループ「楽しさをきっかけに地域とつながる～楽しくないと参加にはつながらない～」

【課題】

● コミュニティの希薄化

- ・マンションだと住民の顔が見えてこない。隣人の顔もわからない。
- ・個人情報の兼ね合いから安易に名簿を作ることもできない。
- ・結婚を機に越してきた人、後から越してきた人は、古くからのコミュニティには入りにくい。コミュニティへの入りにくさは防災面のハードルにもなっている。
- ・防災訓練に参加しない人は一定数いる。仕事の事情で参加できない人もいる。

【課題の解消に向けて】

● 自分のことは自分で助ける

- ・自分でできることは自分で助ける「自助」が前提であり、これを啓発する必要がある。
- ・自助の先に共助があり、最後の手助けとして公助がある。消防隊の助けをただ待つのではなく、消防隊が来るまで自分たちで助け合っていくことが一番理想である。

● 楽しさをきっかけに参加してもらう

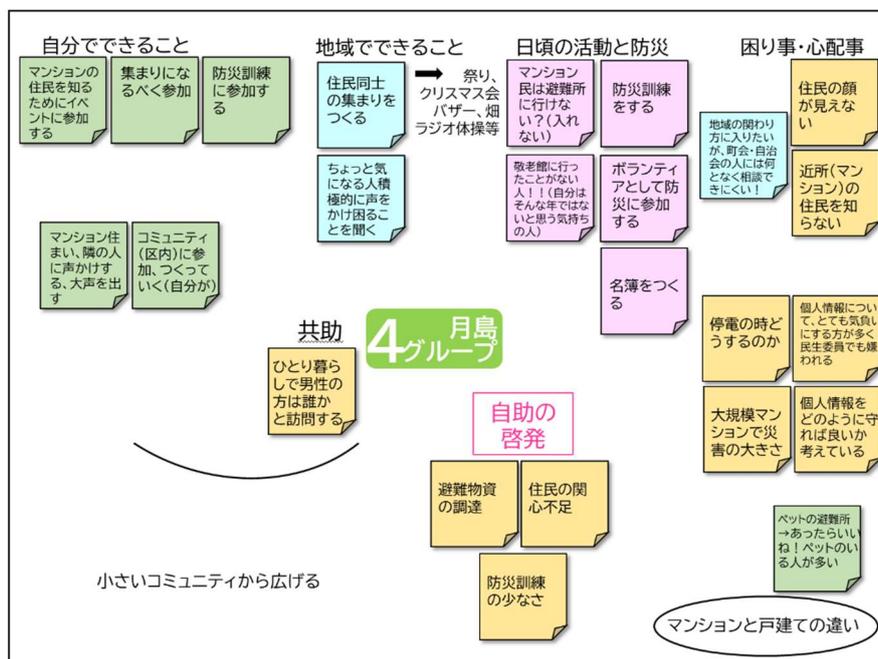
- ・楽しくないと参加には至らない。お祭り、バザー、ラジオ体操などを通しコミュニティを

作っていく。

●小さなきっかけを用意する

- ・いろいろな活動を区民館で行っていたとしても、高齢者が一人で参加する、越してきたばかりの人が参加するのはハードルが高いため、小さいコミュニティを用意する。防災訓練も、マンション全体だと多いので、フロアごとに開催し徐々に広げる。
- ・防災訓練への参加のハードルが高い人に対しては、「助けが必要です」「大丈夫です」などと書かれたマグネットシートを活用し、「この日にマグネットシートをドアに貼ってください」とアナウンスする。こうした内容だと参加する人も多いのではないか。

<検討結果の模造紙>



① 「つながり」が全ての根底にある

高層マンションの増加など様々な要因が相まって、隣近所の顔がわからないというつながりの希薄化が指摘されていた。福祉も防災も、どちらも根底には地域のつながりがあり、公助や自助の限界を地域のつながりがカバーしてきた。しかし、このつながりの大切さに気づいていない住民は多い。つながりの再構築はすぐに実現できるものではないが、身近なところから少しずつ顔の見える関係を広めていくことが求められている。

② 気軽に参加できる仕組みづくり

地域のイベント、町会・自治会への参加に高いハードルを感じている若者は多いだろう。このハードルを低くするため、気軽に参加できる内容のイベント、つながるきっかけづくりが重要と言える。踊り、お祭り、食事、ペットなどをきっかけに、まずは気軽につながれると良い。

また、避難訓練を開催する際は、ただ訓練を行うのではなく楽しさを感じる内容にすることで、防災を身近なものとして感じる事ができるので意識してみたい。

③ 中央区の特性を踏まえた防災について考える

昼間人口と夜間人口の差が大きいことは、中央区の特徴の一つと言える。また同じ中央区であっても地域が変われば異なる特徴を有しており、それらの特徴を踏まえた各地域ごとの防災のあり方を検討する必要がある。他の自治体では、そうした地域の特徴を生かした地区防災計画が作成されている。中央区でも作成に向けた検討を行ってはどうか。誰かが声を上げないと動きようがないので、まずは皆さんが地域で作成に向けた種まきを行って欲しい。

④ 継続した協議の実施

昨年も感じたことではあるが、あと数時間、何回か協議を重ねれば実現可能なレベルの意見交換が行われている。この場限りのものにするのではなく、ぜひ意見交換を地域の中で継続して行い、実現を目指してほしい。またそうした場を設ける際は、社会福祉協議会に相談すれば地域住民へPR協力などを手伝ってもらえるのではないかな。

7 資料編

●プログラム

**令和4年度
プログラム**

地域福祉ワークショップ

「地域福祉について考えよう」

～災害にも強い福祉のまちづくり～

地域福祉をご存じですか？

「福祉」と言われると、高齢者や障害者など対象ごとの福祉を思い浮かべる方が多いかもしれません。ですが、地域には様々な立場の方、課題を抱えながら生活している方がいます。誰もが自分らしく生活できるように、互いに助けあい支えあうことが「地域福祉」であり、地域生活に欠かせない考え方と言えます。



今回は「災害にも強い福祉のまちづくり（地域防災）」の視点から、中央区の地域福祉について皆さんと考えていきます

<目次>

タイムスケジュール	1
地域福祉ワークショップの目的	2
グループワークの進め方	3
おわりに	5



タイムスケジュール

1. 開会・あいさつ (2分)	開会にあたって事務局からごあいさつをいたします。
2. オリエンテーション (5分)	●プログラム説明 ●地域福祉ワークショップの目的
3. 講演 (30分)	「中央区の地域福祉を考える」 ●講師：駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏
4. グループワーク (80分)	グループごとに、「災害にも強い福祉のまちづくり（地域防災について）」をテーマに話し合いを行います。 ①説明 (5分) ②話し合い (50分) ③発表 (15分) ④総括 (10分) ●ファシリテーター： 駒澤大学 文学部教授 川上 富雄 氏 ●サポーター： 中央区社会福祉協議会 職員 ●オブザーバー： 中央区（防災課・高齢者福祉課）、おとしより相談センター 職員 ①テーマに沿って話し合います。 ②各グループで話し合った結果を発表しましょう。 ③ファシリテーターからコメント、アドバイスをいただきます。
5. おわりに (3分)	事務局からごあいさついたします。
6. 閉会	地域福祉ワークショップは終了です。

ワークショップは2時間程度を予定しておりますが、進行状況により時間が前後する場合がございますのでご了承ください。



- 1 -

地域福祉ワークショップの目的

区では、令和2年3月に「みんなが支えあい、自分らしく暮らせるまち」を基本理念とした「中央区保健医療福祉計画2020」を策定しました。また、令和3年3月には、中央区社会福祉協議会が「第2期中央区地域福祉活動計画」を策定し、区と社会福祉協議会が連携して地域共生社会の実現を目指すこととしています。

「みんなが支えあい」という基本理念にあるように、地域共生社会の実現のためには、行政による取組はもちろんのこと、区民の皆さんが主体となって地域生活課題の解決に取り組む支えあいの地域づくりが重要です。

地域福祉ワークショップは、区民の皆さんの自由な意見交換により課題解決に向けた方策を話し合い、横のつながりを深め、支えあいの地域づくりを推進することを目的としています。



～ 皆さまへのお願い ～

- グループワークは決められた結論に導くものではありません。自由に思いつく意見を出してください。
- 出された意見は批判せず、楽しい雰囲気や活発な意見交換ができるよう協力をお願いします。
- 限られた時間内での話し合いとなります。お一人で話を独占したり、一言も話さなかったりということがないようにご注意ください。
- 高齢者、障害者、子ども、外国人、生活困窮など、地域にはさまざまな困りごとを抱えた方がいることを念頭におきながら、できるだけ包括的に意見を出し合ってください。
- サポーター役として、中央区社会福祉協議会の職員が来ています。進行に行き詰まったときや地域福祉の制度に関することなど、分からないことがあったら遠慮なく質問してください。
- オブザーバー役として、区（防災課・高齢者福祉課）とおとしより相談センターの職員が来ています。防災に関する、高齢者の支援についてなど、分からないことがあったら遠慮なく質問してください。

グループワークの進め方

- 「自己紹介」をしましょう。
 - ＊A4用紙に、「所属・団体（記入例：町会、民生委員、ボランティア、地域住民 等）、氏名、趣味・特技」を記入します。
 - ＊記入した用紙を使って「1人1分ずつ自己紹介をしてください。」
 - ＊自己紹介のあとは、4つ折りにして机上用の名札として使います。
- 「司会」役と「報告」役を決めましょう。
 - ＊「司会」役の方は、メンバーのアイデアや意見を分類・整理します。
 - ＊「報告」役の方は、グループワーク終了後に意見交換の内容について簡単に発表していただけます。
- 川上先生の講演について。
 - ＊先生の講演はいかがでしたか。
 - ＊地域づくりは防災や福祉の土台となるものです。また、防災と福祉は切り離して考えることはできず、一体的に取り組む必要があります。
- 本日話し合う「テーマ」を確認しましょう。
 - ＊本日話し合うテーマは「災害にも強い福祉のまちづくり（地域防災について）」です。皆さまでなぜこのワークショップに参加を決めたのか、この後の個人ワークや意見交換のヒントとなる視点を確認します。

地域の困りごとや心配事	・地域の困りごと、心配事は？ ・防災に関して気になること、思い
日頃の活動と「防災」の関係	・日頃の活動を連ねて防災について考えたこと ・活動を通して気になること
地域でできること	・こうすればうまくいく！アイデア、提案 ・どのような防災のしくみがあるとよいのか？
自分のできることや必要なこと（もの）	・アイデア、提案を実現するために自分のできることは？ ・必要なこと（もの）は？活動？サービス？人？場所？



氏名

- 3 -

一人暮らしの高齢者が心配
日頃から声をかけて健康増進になる

●まずは「個人ワーク」を行います。

- P.3のトピックスを参考に、テーマについて各自自分の意見や思いを付箋に書き出します。(3～5分)
- 1枚の付箋に1つの意見を記入してください。
- 付箋は何枚書いていただいても構いません。
- グループ内の他のメンバーと同じ意見も書いてください。付箋の数が多いほど、重要度が高い意見だと思われれます。

●グループで話し合いをはじめます。

- 書いた付箋は読み上げて横造紙に貼り付けます。
- 似たような意見は並べて貼ったり、線で囲んだりして分類すると、分かりやすく整理できます。
- 横造紙には自由に書き込んでいただいて結構です。各グループに1枚ずつお配りしています。2枚以上使用したい場合は職員にお声かけください。

<横造紙作成例>

災害にも強い福祉のまちづくり

気にもなること
熱心活動

地域でできること
自分ができること

いま地域に必要なのは…

イラストを描いていただいても構いません

-4-

●グループでの話し合いの結果を全体で共有します。

- 各グループの発表者が、作成した横造紙を参考に意見交換の内容を簡単に報告します。大切だと思ったこと、特に多く出ていた意見を中心に報告してください。(1グループ2～3分程度)
- 同じテーマだとしても、話し合いの結果はグループで異なります。他のグループがどのような話し合いを行い、何を感じ取ったのか話を聞くことで、さらに本日の学びを深めることができます。

おわりに

長時間にわたり話し合いをしていただきましてありがとうございました。皆さまからいただいたご意見やアイデアは、「中央区保健医療福祉計画」、「中央区地域福祉活動計画」の改定や地域カルテの更新の参考資料とさせていただきます。区と中央区社会福祉協議会では、引き続き、支えあいのしくみづくりに向けた取組を進めてまいりますので、今後とも、ご理解、ご協力くださいまよう心よりお願い申し上げます。お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。

～最後に、お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。～

MEMO

-5-

●ワークショップの様子



講演「中央区の地域福祉を考える」(日本橋地域)



グループワーク (月島地域 全体)



グループワーク（京橋地域）



グループワーク（日本橋地域）



グループワーク（月島地域）



発表（京橋地域）



発表（日本橋地域）



発表（月島地域）



講師コメント（京橋地域）



模造紙（京橋地域 1グループ）



模造紙（京橋地域 3グループ）



模造紙（京橋地域 4グループ）



模造紙（日本橋地域 1グループ）



模造紙（日本橋地域 2グループ）



模造紙（日本橋地域 3グループ）



模造紙（月島地域 1グループ）



模造紙（月島地域 2グループ）



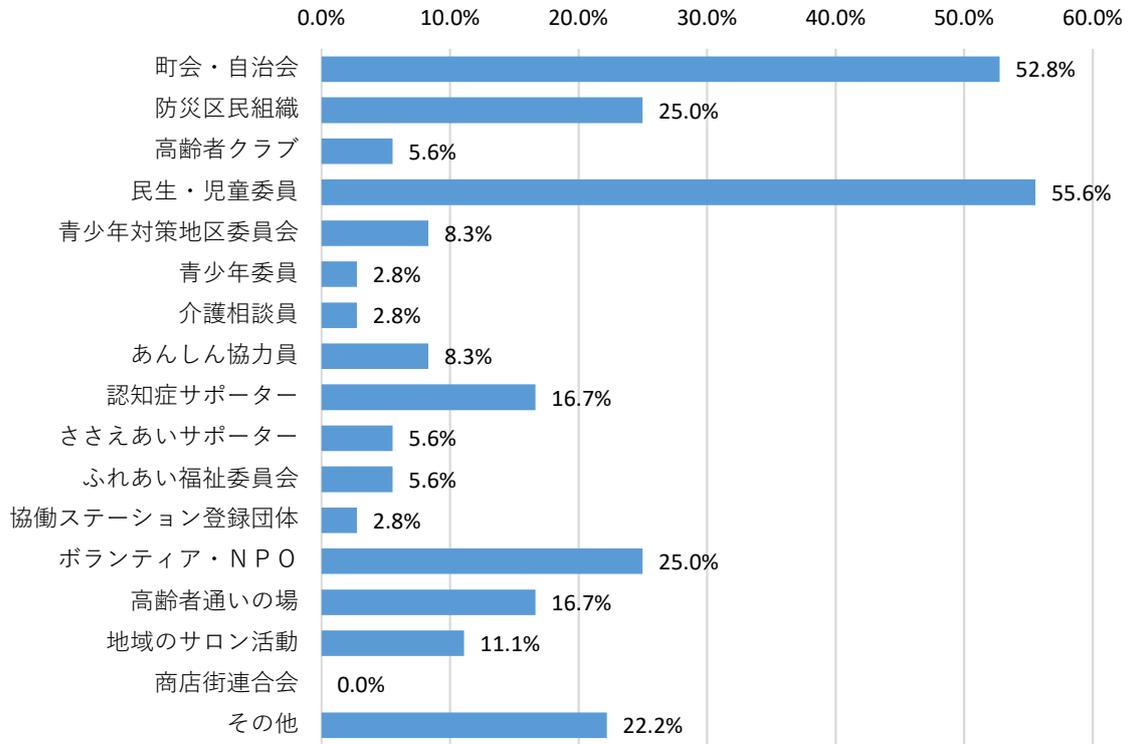
模造紙（月島地域 3グループ）



模造紙（月島地域 4グループ）

●主なアンケート結果

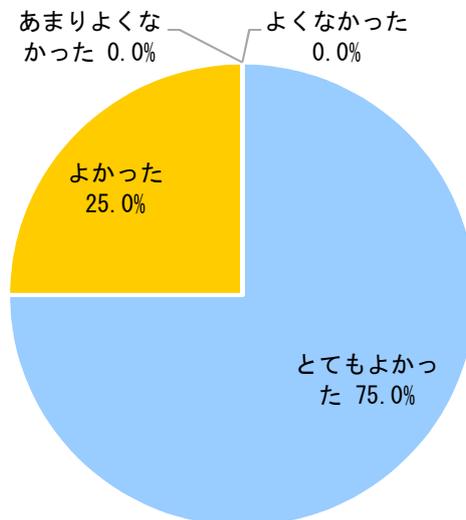
問1 どのような地域活動をしていますか（あてはまるものすべてに○）



【その他の回答】

- ・虹のサービス
- ・ファミリーサポート
- ・小学校のおやじの会
- ・ボーイスカウト
- ・消防団

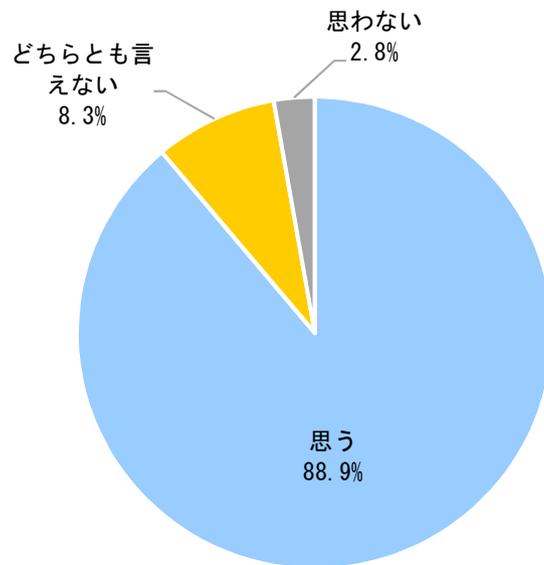
問2 地域福祉ワークショップに参加して、いかがでしたか。



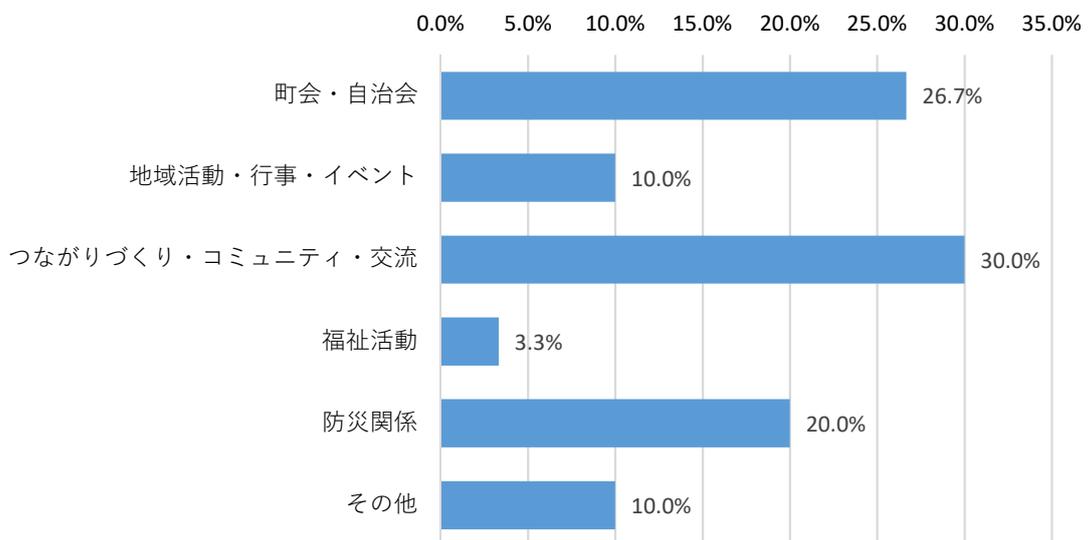
問3 質問2で「あまりよくなかった」又は「よくなかった」に○をつけ方にお伺いします。
 そのように感じた理由についてお聞かせください。

・(該当者なし)

問4 今回の地域福祉ワークショップは、今後のあなたの地域活動に活かせると思いますか。



問5 質問4で「思う」に○をつけた方にお伺いします。どのような場面で活かせそうですか。



【具体的な回答】

○町会・自治会

・町会。

- ・町会・自治会の後継者づくり。
- ・町会活動、消防団活動、ボランティアなど。
- ・資料の一部を町会役員会に提案する。
- ・町会活動。
- ・町会などで話をしてみたい。
- ・町会ということをもっと大事にオープンにしていけたらと思います。
- ・町会で防災訓点に力を入れてもらうよう働きかけたい。

○地域活動・地域行事・イベント

- ・現在地域活動はできていないのですが、今後活動することがあったときに役立つのではと思いました。
- ・日々の活動など、参考にしたいことがたくさん、たくさん。
- ・地区委員会のイベントに防災を取り入れた運動会を開催したい。

○つながり・コミュニティ・交流

- ・単純に防災を考えるというより、地域福祉の一環として考えるという発想がなかったため、その一環と考えるとコミュニティづくりという共通課題がはっきりし、別の機会に話す際にも役立つと思う。
- ・コミュニティを作っていく。
- ・民生委員になったばかりなので、今後どのようにコミュニケーションをとっていくか、先輩からの助言もありました。また、マンションのコミュニケーションの取り方も工夫されるよう助言できればと思います。
- ・地域のことを考えていくためのきっかけづくりとして役立てると 생각합니다。
- ・コミュニティに積極的に参加すること。
- ・自分が今日からできること「声をかける」「あいさつをする」ことから行動できます。
- ・声かけ、コミュニケーションを意識的にしていきたいと思う。
- ・自身から声掛けを心掛け、マンション内の住民とコミュニケーションを取れるようにしていきたい。
- ・近所の付き合いが大事。

○福祉活動

- ・民生委員の活動の中で活かしていきたい。

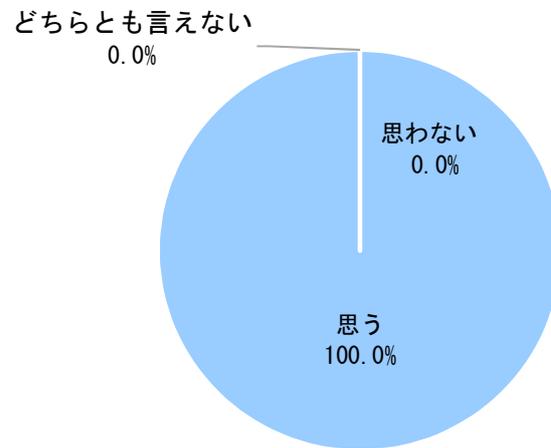
○防災関係

- ・今後の消防団活動に活かせる。思いやり、冷静の大切さを感じた。
- ・もう一度防災を進めるためのきっかけ・アドバイスが新たに生まれた。
- ・地域の皆さんに呼び掛けて、地区防災計画を皆さんと作ることができれば良いと思っています。
- ・在勤者だけではなく、地域的な特性も考えた活動。防災拠点は在住者のみだけでも、いろいろな防災組織を活用するべきだと思います。
- ・防災のこと、マンション内のこと、いろいろ考えていきたいです。

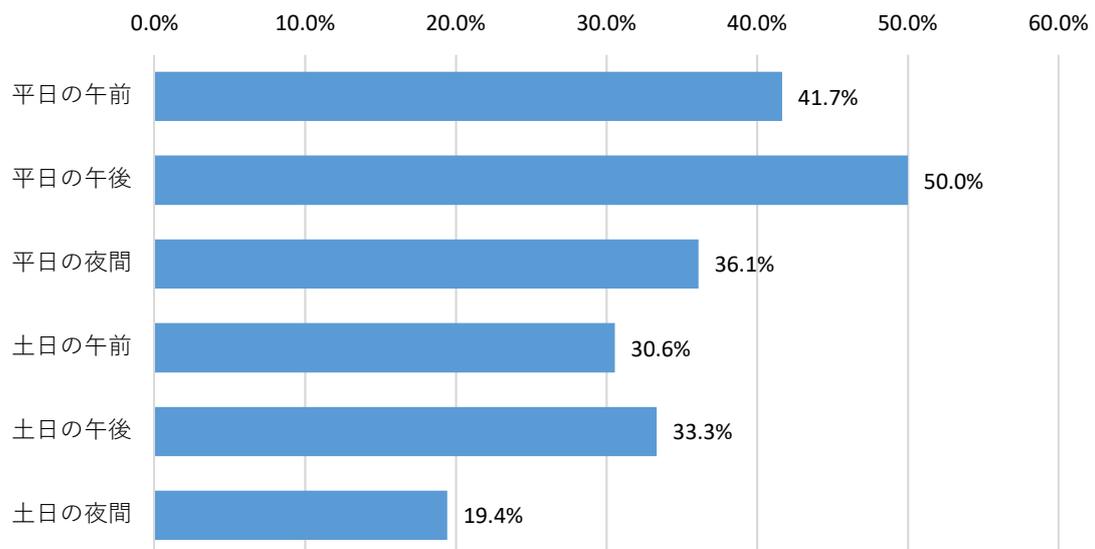
○その他

- ・生活に役立つ。
- ・在勤者として何ができるか、考えさせられました。まずは「種まき」として、同じ事業所内で、話し合いをしていこうと思います。
- ・再確認できて、何度も確認していこうと思いました。
- ・機会があれば管理組合に情報提供してつなぎたい。

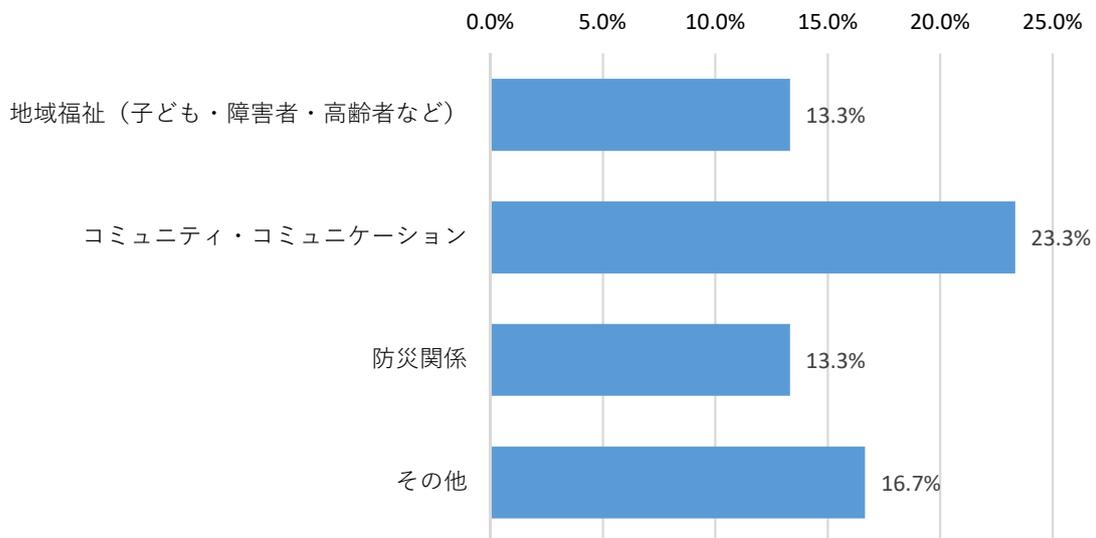
問6 今後、本日の地域福祉ワークショップのような、地域住民や地域活動者が集まって地域の課題を話し合ったり、交流したりする場（以下、「ワークショップ等」という。）があったら、参加したいと思いますか。



問7 ワークショップ等に参加する場合、どの時間帯だと参加しやすいですか。



問8 ワークショップ等に参加する場合に、話したい内容や興味のあるテーマなどがございましたらご自由にお書きください。



【具体的な回答】

○地域福祉 (子ども・障害者・高齢者など)

- ・ヤングケアラー問題。
- ・子どもの声のアドボカシー。
- ・小児虐待。
- ・地域での精神障害者の受け入れ態勢。

○コミュニティ・コミュニケーション

- ・自身の住む地域のまちづくり、魅力の上げ方、住民の希望など。
- ・コミュニティづくり。
- ・防災対策ばかりに目がいていたが、一番大事なのは住民、地域のコミュニティを作ること、「共感原理」も大切であると知り、これを持ち帰り共有したいと思った。
- ・子育て世代が参加しやすいコミュニティづくり。
- ・いかにコミュニティが大切の必要性を知っていても難しいです。
- ・子育て世代を町会、集まりに巻き込んで、子育ての苦勞、孤独感を減らしていきたい。
- ・地域に関わる人たちで手をつなぐ仕組みづくり。

○防災関係

- ・興味がわく防災について。
- ・マンションでの防災活動。
- ・災害。
- ・福祉と防災について、もっと情報提供してもらいたい。

○その他

- ・これからすべてが勉強になると思います。

- ・生活全般に関するもの。
- ・問題となることが多く、情報としてまとめテーマにする・考えていきたい。
- ・対テロ。
- ・各グループで考えて勉強になりました。

問9 本日の地域福祉ワークショップ全体を通じて、ご意見・ご感想などがございましたらご自由にお書きください。

- ・町会関係の人達も参加して欲しかったので、声かけの工夫が何かできるといいかなと思いました。
- ・「京橋地域の特性を考慮した福祉教育について」を勉強していきたい。街づくりと福祉の連携を考えるためのデータを知りたい。
- ・民生委員の方が活発に動いてらっしゃることを知りました。地元の民生委員とも話してみたいと思います。
- ・災害時避難所にはペットを預かるケージが用意されるようになり、ペットを飼育されているご家庭にはご案内し、不安のないよう努めています。
- ・社会福祉協議会の人にはいつも色々お世話になっています。これからもよろしく願います。
- ・区役所と出張所以外の例えば「きらら」「おとしより相談センター」をはじめとして、様々な施設があることや、その場所を知らない人が想像以上に多いことを改めて感じた。その点の解決方法など考えていく工夫ができたらと思っています。
- ・地域住民の生活が多様化してきた中で意見交換は重要と思います。次回もよろしく願います。
- ・地域での役割等関わり方はまだまだ沢山あるということ。色々な方たちの考え方を聞けて良かったです。

8 さいごに

ワークショップで出されたご意見やアイデアは、区の「中央区保健医療福祉計画」及び社会福祉協議会の「中央区地域福祉活動計画」の改定や地域カルテ更新の参考資料として活用する。